

スマート農業推進

J A
フォーラム 「自給率上げる」

岐阜市



地産地消をテーマに意見を交わす
櫻井宏会長(右端)ら＝岐阜市司
町、ぎふメディアコスモス

J A岐阜中央会の「食農フォーラム2020」は16日、岐阜市司町のぎふメディアコスモスで行われ、揖斐郡池田町で料理店を営む姉妹や食育指導士ら食の専門家がコロナ禍における地産地消の取り組みについて意見を交わした。

食と農業の結びつき、地産地消の重要性をPRしようと開いており、今回で11回目。岐阜市の食育グループ「ほっぺの会」代表の伊藤恵さん、池田町のレストラン「ネシアン」シェフの大野ひろみさん、本田ゆみさんがゲストで参加、J A岐阜中央会の櫻井宏会長と意見を交わした。

大野さん、本田さんが冬野菜を使ったオリジナル料理のレシピ、伊藤さんが食育の取り組みをそれぞれ紹介した後、櫻井会長と県内産の農畜産物、国内平均より低い県内の食料自給率をテーマに意見を交わした。コロナの影響でバターや小麦粉がスーパーの店頭から姿を消した現象を振り返り、櫻井会長は「自給率を上げるため、農業を始めた人を募る活動やスマート農業を推進していく」と語

った。

フォーラムは聴講者を入れる予定だったが、緊急事態宣言発令を受けて取りやめ、オンラインでライブ配信した。
(三輪真大)